



283号  
2023/5

日中文化交流市民サークル'わんりい'  
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方  
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195  
<http://wanli-san.com/>  
Eメール:t\_taizan@yahoo.co.jp



盛装したギャロン・チベット族の老婦人：重そうな首飾りの大小の玉は、先祖から伝わったり、亡夫から貰った珊瑚や貴石で、婦人の誇りです。

(四川省丹巴県 2002年04月 撮影：姑娘山自然保護区管理局特別顧問 大川健三)

'わんりい' 2023年5月号の目次は20ページにあります



今月の言葉は、読んで字の如く、分かりやすいのですが、却って四字成語としての認知度は低いようで、日本語の四字成語辞典1冊（「神工鬼斧」で掲載）にしか出ていませんでした。日本語では、「神業」とか「超絶技巧」とか云う処でしょうか。

・>・>・>・>・>・>

昔、魯の国に、細工が上手いことで知られた梓し慶けいという人がいました。ある時、一本の木からまるで生きているような、架空の動物を彫り込んだ楽器を作り上げました。

あまりに素晴らしいので、ある人が魯の国王に献上しました。国王はその楽器がすっかり気に入り手放せなくなりました。それで梓慶を呼び寄せて、尋ねました：「お前はどんな魔術で、こんな素晴らしいものを作り上げたのか？」

梓慶は国王の目を見ながら答えました：「私は一介の木工にすぎません。魔術などともありません。特別なことではありませんが、製作をする時は、名声、利益、他人の評価などすべてを忘れて、無我の境地で、唯々これを良い物に仕上げようと取り組んでいます」

国王は彼の言葉を聞いて、彼が何故、他の人々とは全く違う、まるで神業のような作品を作り出せるのか、理解することが出来ました。

・>・>・>・>・>・>

**言葉の意味：**まるで神様が作ったようで、とても人間業とは思えないように、精巧に出来た作品、主に建築、塑像、絵画などの工芸品に関して言う。

**使い方：**彼の作品はどれも神の手で作られたようだ、特にこの作品は鬼斧神工そのものだ。

・>・>・>・>・>・>

この言葉、私の四字成語辞書には記載がありませんでしたが、出典は、中国・戦国時代に活躍した荘子（BC369～286）の思想を集めて今に伝える書物「そうじ荘子」達生編です。

荘子は戦国時代、宋の国（今の河南省商丘市）に生まれた思想家で、「無為自然」が人間の最高の境地だと説きます。難しい思想ですが、荘子はお話の名手で、この難しい思想を解り易い寓話で説明します。

以前この欄でご紹介した、鬪鷄を育成する名手が、国王の強い鷄を預り、3か月の間に、戦う気持ちを抑え、はやる心を押し殺し、周囲の事物に動じないように訓練して、まるで木彫りの鷄のような鬪鷄を作り上げたお話もこの達成編に収められています。



挿絵：満柏画伯

今月のお話も同じ方向性を持つお話で、雑念を捨て、我を忘れて仕事に打ち込めば、自ずから素晴らしい作品が生まれてくる、つまり「無為自然」が最上というわけです。

そういえば、荘子に関しては、楚の威王が宰相に迎えたいと、礼物を携えて訪れたのに対し、位人臣を極めるよりも自然の中で自由に暮らす方を選ぶと言って、宰相就任の話を断ったという有名な話が伝わっていますね。

世の中の全てのものが皆同じ価値を持つのだと考える荘子としては、一国の宰相として多忙な日々を送るよりも、一般人として自由を謳歌する方が望ましいと考えたのでしょう。

荘子は後世、老子と共に道教の祖と言われます。老子の思想と違う処も多いのですが、人智の上に「道」という天の意思・自然の力を置く処で両者の思想は共通なのだそうです。

# 王之渙の五言絶句『登鶴雀樓』

桜美林大学名誉教授 植田渥雄

盛唐の詩人王之渙(688~742)は同時代の王翰と並ぶ人気作詞家でした。花柳界の妓女たちが、競ってその作品に節を付けて歌ったと伝えられています。作品の多くは散佚し、今残っているのは6首だけですが、なかでも『登鶴雀樓』は取り分け有名です。

dēng guàn què lóu      wáng zhī huàn  
登 鶴 雀 樓      王 之 渙

bái rì yī shān jìn  
白 日 依 山 尽

huáng hé rù hǎi liú  
黄 河 入 海 流

yù qióng qiān lǐ mù  
欲 穷 千 里 目

gèng shàng yì céng lóu  
更 上 一 层 楼

\* 鶴雀樓 = 山西蒲州(今の山西省永濟市蒲州鎮)にある三階建ての楼閣。黄鶴樓、岳陽樓、滕王閣と並ぶ四大名樓の一つ。北周時代に建てられ、宋、金時代まで存在したが、元代初期に戦火に焼かれ、更に明代初年洪水によって基礎も流失した。2002年、近くに場所を変えて再建され、今では有数の観光地となっている。鶴雀とはコウノトリのこと。コウノトリが棲んでいたという言い伝えからこのように呼ばれる。鶴鶴樓とも表記される。\* 白日 = 太陽。\* 依山尽 = 山の端に沈む。\* 入海流 = 海に流れ込む。\* 更上一层楼 = 更に階を上る。

## 〔訓読〕

かんじゃくろう      おう し かん  
鶴 雀 楼 に 登 る      王 之 渙

はくじつ      よ      つ  
白 日 山 に 依 り て 尽 き

     なが  
黄 河 海 に 入 り て 流 る

     きわ  
千 里 の 目 を 窮 め ん と 欲 し て

     のぼ      いっ そう  
更 に 上 る 一 層 楼

日は山の端に沈んでゆき、黄河は海に向かって流れてゆく。日の沈む先には一体何があるのだろうか。眼下を流れる黄河の水はどのようにして海に流れ込むのか。この雄大な自然の姿を目の当たりにした私は、千里の先まで見極めたくなり、無駄と知りつつ、この楼閣の階段を更にもう一階登らずにはいられなかった。

素晴らしいものを見ると人は更にその先を見たくなる。これは誰しもが持つ知識欲の源泉で、ここにはそういった人間の心理がそれとなく表現されています。

ただ現在の中国では結句の「更上一层楼」だけが切り離され、「更にもっと頑張るように」と人を督励する言葉として使われています。

## 〔和訳〕

日は山の端に沈み行き  
黄河は海に流れ行く  
千里の先を極めんと  
登る階段また一層



鶴雀樓の切手(中国・ウクライナ共同制作) 百度图片から

## 王維の『九月九日山東の兄弟を憶う』

報告:花岡風子

今日のお題は王維の「九月九日山東の兄弟を憶う」、という七言絶句でした。

先ず詩の解説に入る前に植田先生から王維の人生背景についてのお話がありました。701年生まれで、李白と同年だという説が有力なようです。盛唐を代表する杜甫、李白と並んで、盛唐の三大詩人と呼ばれる存在です。

王維は裕福な家庭に育ち、9歳で詩を作り始め、16歳の時、単身で長安に出て、社交界にデビュー。作詩の他にも美術、音楽など多方面に才能を発揮して人気者になっていたそうです。そして、なんと21歳にして科挙に首席で合格し、役人生活に入るというエリート中のエリートでした。李白や杜甫よりも早く長安で人気者だったそうで、なんでもできる非常に優秀な人で、役人としても恵まれた人生を送りました。何万人に一人かは、こういう人もあるものなのですね。『ドラえもん』でいうと“できすぎ君”みたいなタイプでしょうか。

さて、そんなエリート王維に対して、杜甫は、というと科挙に二度失敗し、試験は諦め、ひたすら詩才で以て玄宗皇帝に仕えることを目指したがかなわず、苦難の人生を歩み続けました。李白はそもそも出身家庭や後ろ盾に問題があり、科挙の試験を受ける資格すらありませんでした。「学生を教えていた頃、『この3人の中で後世の評価では、ノンキャリの下っ端役人の杜甫がナンバー1、受験資格すらなかった李白がナンバー2、一番優秀な王維がナンバー3なんですから、諸君、絶望するのは早いよ』と言ったら、ウケましたね」と植田先生。会場からはどっと笑いの声があがりました。『ドラえもん』でも、最終的にみんなのアイドル“しずかちゃん”と結婚するのはなぜか“のび太”ですよ。

育ちが良く、幼いころから母の影響を受けて、

篤く仏教に帰依していた王維は、立身出世の条件がそろっているにも関わらず、それを追求しませんでした。そもそも王維の名は、維、字は摩結(まきつ)といい、これは『維摩経』の主人公で釈迦の弟子の維摩詰(ヴィマラ・キールティ)から取ったものでした。杜甫は詩聖、李白は詩仙と呼ばれるのに対して、王維は詩仏と称されるゆえんです。「王維の詩には禅の気風が感じられますね」と植田先生もおっしゃっていました。仏教的な生き方を生涯貫いた人生だったのでしょう。立身出世を追求せず、長安郊外に広大な別荘地を買い取り、職務の合間にはここに引きこもり、気の合った友人を相手に詩を唱和するという風雅な生活を好んだようです。さて、そんな王維の詩は、典故が少なくわかりやすいのが特徴です。では、作品を見てみましょう。

きゅうげつきゅうじつ けいてい おも  
九月九日山東の兄弟を憶う  
王維

ひと いかく な  
独り異郷に在りて異客と為る  
かせつ ごと ます しん  
佳節に逢う毎に倍ます親を思う  
はる けいてい ところ  
遥かに知る兄弟高きに登る処  
あまね しゅゆ さ いちにん か  
遍く茱萸を挿して一人を少く

私は一人で異郷暮らしの身だ。九月九日を迎えるたびにますます親兄弟や親戚のことを思い出す。今頃親戚一同で高いところに登り、茱萸の枝を挿して厄除けをしているときに「一人いないな」と感じているのではないだろうか？

九月九日(旧暦)と言えば、今でも重陽の節句として大切な節目ではありますが、昔は色んな風習があったようです。先ず、九という数字は、陰陽学では最高の数字であり、これが重なれば大吉中の



大吉、後は悪い方に向かうしかないということで、色々と厄払いをする日だったようです。

これまでも、重陽の節句に、高い所に登って、菊を入れた菊酒を飲むという詩を学んだこともありましたが、この王維の詩のなかでは茱萸（この漢字は日本では一般にグミと読まれるが、実は日本でいうグミではなく、カワハジカミのこと）の枝を髪に挿し、魔よけのおまじないをするという習慣があったそうです。親戚中の者たちが集まり、高いところに登り、お互いの髪に枝を挿したりしながら、「今年は摩結がないな」とみんな思っているだろうな、と、遠く離れた仲間の気持ちを察する形で、それとなく自らの孤独感を示唆しています。こういうひねった表現が日本人の心をくすぐるのでしょうか。

今はめっきり少なくなりましたが、私の子供の頃も、盆正月は親戚一同が集まり、にぎやかに過ごしました。この詩を鑑賞して、幼いころのある年のお盆の精霊流しの時に親戚一同でぞろぞろ海辺へ歩いていく道すがら、今年は「〇〇叔父さんがいないな」と寂しく感じていた自分の気持ちを思い出しました。この詩の第二句「每逢佳节倍思亲」は中国では、知らない人のいない名句で、贈り物商品のパッケージにもよく使われています。



「每逢佳节倍思亲」の例（覓元素より）

## jiǔ yuè jiǔ rì yì shān dōng xiōng dì 九月九日忆山东兄弟

wáng wéi  
王維

dú zài yì xiāng wéi yì kè  
独在异乡为异客

měi féng jiā jié bèi sī qīn  
每逢佳节倍思亲

yáo zhī xiōng dì dēng gāo chù  
遥知兄弟登高处

biàn chā zhū yú shǎo yī rén  
遍插茱萸少一人

王維の人生も全て順風満帆だったというわけではありません。756年、安祿山の乱により、都長安が陥落し、玄宗皇帝は蜀の地に逃れます。王維はその後を追うのですが、途中で賊兵に捕らえられて、長安に連れ戻されてしまいます。王維は給事中という当時としては比較的高い役職ついで、賊軍からも引き続きこの役職を勤めるように強要されます。その後安史の乱が収まり、長安が旧に復したのちに、賊軍に協力したという罪に問われてしまうのです。しかし、この時王維の、優秀で兄想いの弟、王縉の懸命な助言で、死刑を免れて給事中に復職します。その後、尚書右丞（副大臣格）に昇進したのです。杜甫も、李白もこの安祿山の乱では命からがらの思いをしています。時代の波にもまれるのは人間の宿命みたいなものなのかもしれません。

講座ではこの後、唐王朝の秘書監として勤務していた日本人の阿倍仲麻呂（中国名では晁衡）が日本に帰国するにあたって詠んだ王維の詩『秘書晁監の日本国に還るを送る』という詩も鑑賞しました。阿倍仲麻呂はご存知の通り、この航海で難破して日本に還りつくことが出来ず、唐の地で亡くなりました。王維、李白、そして阿倍仲麻呂は一体どんなことを語り合っていたのでしょうか。遙か唐の都に思いを馳せつつ今回は筆をおくことにします。

## 2022 年度全国十大考古新発見

文と写真=村上直樹

去る3月28日に中国国家文物局より「2022年度全国十大考古新発見(発見)」が発表された。10件のうち河南省関連では「河南偃師二里头都邑多網格式布局」(河南偃師二里头都市多グリッド配置)、「河南安陽殷墟商王陵及周辺遺存(遺物)」(以上、発掘作業は中国社会科学院考古研究所による)、「河南開封州橋及付近汴河遺跡」(河南省文物考古研究院および開封市文物考古研究所)の3件が入選した。

その年のとくに重要な考古学上の新発見を10件選定するこの事業は1990年に始まり中国考古学界において最も権威あるものとされる。国家文物局が所管し中国文物報社と中国考古学会が実施する。今年度入選したその他の7件は「湖北十堰学堂梁子遺跡」、「山東臨淄趙家徐姚遺跡」、「山西興県碧村遺跡」、「陝西旬邑西頭遺跡」、「貴州貴安新区大松山墓群」、「吉林琿春古城村寺廟跡」、「浙江温州朔門古港遺跡」である。

国家文物局のホームページには2022年度の選定過程についてかなり詳しく報告されている。選定作業は2022年11月10日に開始された。まず第一段階では32件がノミネートされた。その時代範囲は100万年前の旧石器時代(中国では約300万年前から1万年前ごろまで)から明清時代に及び、類型は先史時代の大規模集落跡、古代の貴族や庶民の墓、都市・港・仏教寺院の遺跡など多岐に亘っている。

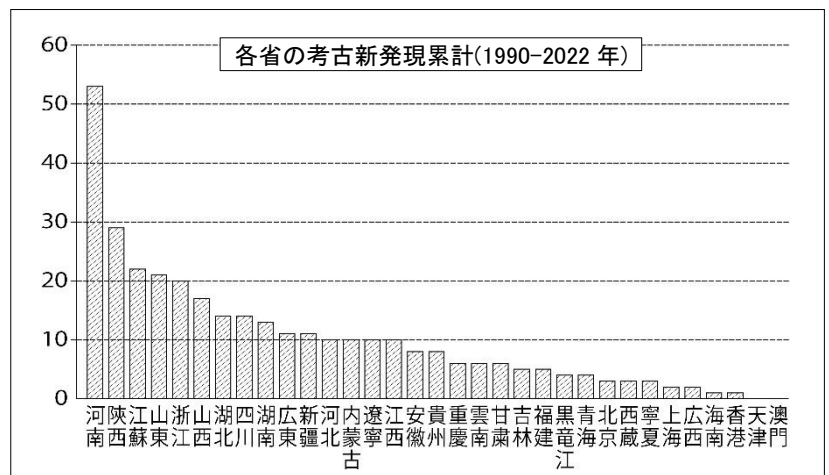
この32件に対して第一次投票が実施され2023年2月27日に選考の第二段階に進む22件が発表された。なお、投票数は関連団体票が91、中国考古学会理事の個人票135の合計226票である。そして2023年3月27-28日には北京でこれら22件の代表および選考に当たる考古学界の専門家が集まる最終選考会が開かれた。27日には1件当たり20分でプレゼンテーションが実施され、翌日の28日には投票結果に基づく10件が発表されて記者会見も行われた。

因みに、河南省関連の新発見は第一段

階の32件の中には最終的に入選した3件以外に「河南鄭州商都遺跡書院街墓地」が含まれていたものの、これは第二段階の22件には残らなかった。全国では第二段階から最終段階に至る際に12件が落選してしまったが、中国社会科学院学部委員・中国考古学会理事長の王巍氏によると今年とはとくに当たり年で、落選した中にも例年なら十分入選したであろう質の高い新発見が多く含まれていたようだ。

今年度は3件も入選したということで河南省でも大きな話題となった(2023年3月29日付『大河報』など)が、悠久の歴史を誇る河南省はこの選定では常連である。『百度百科』には毎年十大新発見の一覧が出ていたので大陸33地域(省、直轄市、自治区、特別行政区)別に累計をグラフにしてみた。なお、重慶市が直轄市に昇格したのは1997年3月であるがここではそれ以前の四川省に属する市(地級市)であった時期から数えている。また、香港と澳門(マカオ)が中国に返還され特別行政区となったのはそれぞれ1997年7月1日と1999年12月20日である。対象年次は1990年から2022年までの33年間であり1998年と2007年は2つの地域に跨る新発見があったため累計総数は332件となる。

グラフからわかるように河南省は断トツの一位である。件数は53で、総数に占める割合は16.0%である。以下、陝西省(29件、8.7%)、江蘇省(22件、6.6%)、山東省(21件、6.3%)、浙江省(20件、6.0%)とつづいている。一方、マカオはともかく天津も入選ゼロと





いう残念な(?) 結果である。

河南省関連は第 1 回目の 1990 年度に商代末期、西周末期、隋唐代に関わる 3 件の新発見が選ばれるなど 33 年間で今年度も含めて 4 回も 3 件ずつ入選しており、2007 年度には 5 件も入選した（この年度は河南省と河北省に跨る遺跡発見があり、ここではそれを 1 件に含めた）。他方で河南省が 1 件も選ばれなかった年は 1993 年、2002 年、2016 年、2018 年の 4 回に過ぎない。時代的には数万年前の旧石器時代から宋代まで万遍なく選ばれており、とくに新石器時代末期から夏商周時期に集中している（2023 年 3 月 29 日付『大河報』）。

今年度の河南省関係の新発見を見ると 3 件のうち偃師二里头遺跡と殷墟については中国社会科学院考古研究所による内外に広く知られた国家レベルの遺跡発掘プロジェクトの成果である。それに対して開封市の州橋に関わる発見は 2018 年 10 月に始まった河南省の地元研究機関による北宋時代の遺跡発掘調査の成果である。

そもそもなぜ 1000 年ほど前の都市が敢えて発掘調査の対象にされるのかということ現在の開封市が都市(城)の上に都市が重なっているいわゆる「城摞城」だからである。古今東西、戦火によって消失した都市が再建される例は多く見られるが、開封の場合は黄河の氾濫によって埋もれた土地の上に繰り返し新たな都市が建設されるという非常に稀な例である。

20 年来の発掘調査によって現在の開封市の地下には異なる王朝の 6 層の都市が埋もれていることがわかった。最深部に当たる魏の大梁城はまだ発掘されていないが、その他の 5 層については徐々に当時の様子が明らかにされつつある。紀元前 364 年に大梁城が建設されて以来、唐の汴州城、北宋の東京城、金の汴京城、明の開封城が重なり、直近、つまり現在の地表に一番近いのは清の開封城である。今年度入選したのはこのうち最大の規模を誇る北宋東京城に関する成果である。発掘面積は現在までで 4,400 平方メートルに及ぶ。

入選項目の開封「州橋」があった場所は現在の開封市の中山路と自由路の十字路を南に 50 メートルほど行ったところであり、北宋東京城では御街(都で皇帝が使う道路を指す)と汴河(「大運河」の一部)の交差する地点に当たる。唐代の建中年間(780-783 年)



開封市の中山路 (2012 年 11 月)

に建造され、明代末の 1642 年に黄河の氾濫により埋没してしまった。写真は 2012 年 11 月に中山路から「龍亭公園」(北宋時代の宮殿・御苑等を復元した公園)方向を撮ったものである。近年新たに造られた「宋都御街」の牌楼(町の重要な地点や名勝地に建てられた装飾用の建築物)も見える。写真の手前を逆の方向に少し戻ると自由路との交差点になる。

州橋と言えば孟元老著『東京夢華録』にも当時の夜市の盛況ぶりが綴られている(「雑感」2022 年 12 月号参照)。また、かつてはこの橋を背景とする月が「州橋明月」として「汴京八景」の 1 つに数えられていた。さらに『水滸伝』(第 12 回)のいわゆる「楊志売刀」の話はこの州橋が舞台である。これは高俅に任官を拒否され金に困った楊志(青面獣)が背に腹は代えられぬもののごろつき、牛二郎にその優れた切れ味を披露するも、牛二郎は難癖をつけて銘刀を奪おうとする。楊志は勢い余って牛二郎を切り捨ててしまうが、その場から逃げもせず、お上に自首するという話である。

選評によると今回の新発見は北宋東京城の都市構造を研究する上で重要な意義を持っている。そこには紀元前 486 年の春秋時代に建設が始まった大運河(京杭大運河)と東京城の関係を明らかにすることも含まれる。また、とくに今回、州橋の近くで高さ約 3.3 メートル、長さ約 23.2 メートルという巨大な石刻壁画が見つかった。これは現在まで発見されている北宋時代の石刻壁画の中で最大のもので北宋芸術史研究の空白を埋めることが期待される。総じて 10 世紀から 12 世紀にかけての中華文明の発達ぶりを示すという現代的意義が高く評価された。

今回紹介するのは、後漢 (AD25~AD220) 末期の二人の姉妹である。その名は姉が大喬、妹が小喬と言う。「江東の二喬」と呼ばれた。美人姉妹で名高く、古代四大美女と比肩できるほどだったと言う。以下は正史である三国志ではなく三国志演義を中心とした資料に基づいて解説していきたい。

まず名前の「喬」の字であるが、後漢の政治家である橋玄と言う人物の娘で、正史では「大橋」「小橋」とされているがいつの間にか「橋」が「喬」に置き換わっている。当初姉妹を「二橋」と呼んでいたが、誤って喬の字を使い「二喬」と呼ばれるようになったとも。橋玄は名家の出で、霊帝 (在位167年~189年) の時、河南尹となりその後九卿そして三公を歴任した。剛直な人物であったようだ。

ところで中国の歴史に関心をお持ちの方で「赤壁の戦い」を知らない人はいないだろう。赤壁の戦い (208年) は、長江の赤壁 (現在の湖北省赤壁市) で起こった曹操軍と孫権・劉備連合軍との戦いであることはご承知の通りである。

いきさつを簡単に整理すると一 えんしやう 袁紹を討って華北を平定した曹操は、208年に南下して劉表の領土になっていた荊州 (中国の歴史的な州の一つ。現在の湖北省一帯) を攻めた。呉の孫権の部下の中には曹操に降伏しようと言う者がいたが、周瑜や魯肅は劉備玄德と同盟して荊州を占領するように勧めたのである。そうした中で劉表の客分であった劉備は諸葛孔明の尽力で孫権との同盟に成功したのである。周瑜の武将の黄蓋は「火攻めの計」を案出する。孔明が風乞いをしたところ次第に東風が吹き始め、その風を利用して油をかけた薪を沢山積んだ船に火を点け魏の水軍に突っ込ませ、船団を焼き払い壊滅させた。陸に逃げた曹操軍は、関羽の軍に攻め込まれ、疫病も蔓延している中で北に退いた。これにより呉の孫権の

江南における地位も固まり、天下三分の礎が形作られた。)

なお、この戦いの発端は曹操が二喬を銅雀台に住まわせることを望んでいる、と孔明から聞かされた周瑜が激怒して開戦を決意したという話になっている。



『百美新詠図伝』大喬小喬,  
(ウィキペディアから)

この赤壁の戦いをテーマに晩唐の詩人の杜牧 (803年~852年) は、「赤壁」という次ぎのような七言絶句を詠んだ。

赤壁 杜牧  
折戟沈沙鉄未銷  
自將磨洗認前朝  
東風不與周郎便  
銅雀春深鎖二喬

〈語句の意味〉

「折戟」: 折れた銚、  
「銷」: 削られて磨り減ること  
「前朝」: 三国時代のこと

「周郎」: 周瑜の渾名

「銅雀」: 曹操が210年魏の都に建てた宮殿。屋根の上に孔雀が載せられたことからこの名が付いた。曹操のことを指す。

「二喬」: 大喬と小喬のこと

〈読み下し文〉

せつげきすな しず てついま しょう  
折戟沙に沈んで 鉄未だ銷せず  
おの ません も ぜんちやう みと  
自ずから磨洗を將って 前朝を認む  
とうふうしゅうろう ため べん  
東風周郎が与に便ぜずんば  
どうじゃくはるふか に きやう とぎ  
銅雀春深くして二喬を鎖さん

この詩は、前半は砂の中からまだ磨り減っていない折れた銚を見つけ、それを洗って磨くとまさしくあの頃のものであった、と600年前の出来事を懐古する。後半の転句と結句は、〈もし東風が周瑜のために吹いてくれなかったならば、春の深いころ絶世の美人姉妹は捕らえられてあの曹操の慰み者になっていたであろう!〉と、歴史に「もし〜」はないが果たして? と仮定法を用いて読者に想像させている。



但しこの詩は、赤壁の古戦場と言われる、今の湖北省咸寧市にある県級市・赤壁市で読まれたのではなく、同じ湖北省黄冈市赤鼻で読まれているのだそう。ここは杜牧の任地黄州に近く、戦いから既に600年も経ているので、古戦場と勘違いしたのであろうと言われている。

そしてこの地は、杜牧から更に約200年後の蘇軾も赴任しており、この地で「赤壁賦」「念奴喬一赤壁懷古」などを詠んでいて、この地は「文赤壁」とか「東坡赤壁」とか呼ばれ、漢詩ファンには古戦場赤壁よりも好まれる、もう一つの観光地となっている。蘇軾は、この地が古戦場とは違うと承知の上で、杜牧の「赤壁」を念頭に、いくつかの詩を詠んでいる節があるという。因みに、本当の(?)古戦場は、こちらの「文赤壁」に対して、「武赤壁」とも言われている。

ここで周瑜(175年~210年)について少し触れておきたい。彼は後漢末期の武将である。唐の史館(役所名)が選んだ唐朝以前の中国六十四将に選ばれている。字は公瑾。渾名は周郎。安徽省六安市の人。父は周異。妻は小喬である。周家は名家で、高祖父の周榮は尚書令になり、従父の周忠が三公の一つである大尉を務めるなど高官を輩出している。彼の主君は、孫策(175年~200年)→袁術→孫策→孫権(182年~252年)となっている。199年(建安4年)、孫策は荊州を攻略し、揚州の蘆江郡にある皖(安徽省の別称、昔この辺りを皖国といった)を攻め落とす。この時、前述の橋公(玄)の娘二人を捕虜とした。あまりに美しかったからか孫策は姉の大喬を妻に迎え、周瑜は妹の小喬を妻とした。なお孫策は孫権の兄であり、また周瑜とは生まれた年が同じ175年で同じ時代を生きて大変仲が良かった。

次に孫策(175年~200年)について見てみたい。彼も後漢末期の武将である。字は伯符。揚州呉郡富春県(今の杭州市)の人。189年、周瑜の招きにより母と弟たちを連れて安徽省に移住した。周瑜は大きな屋敷を孫策一家に譲り家族同然の付き合いをした。

191年、父の孫堅が劉表との戦い(襄陽の戦い)で戦死後、次弟の孫権と共に袁術に従って移動した。その後周瑜と協力して呉国の基礎を造った。しかし揚州の平定の過程で多くの群雄を殺害したことから恨みを買って、やがて仇討ちに遭って深手を負ってそれがもとで若くして死去。25年の短い生涯であった。後事を弟の孫権に託した。



周瑜赤壁縦火、馬駘「畫寶」、1928発行(ウィキペディアから)

前述のように199年に皖城を占領し、その後捕虜とした姉の大喬を妻に迎えたが孫策は翌年の200年に亡くなった。大喬は嫁入り後半年足らずで未亡人となり、呉に送致されたがその後の消息は不明であった。伝承では夫の死後数か月後に亡くなったという。

妹の小喬はその後どのような運命を辿ったのであろうか? 正史では、〈橋公の娘で周瑜の妻〉としか書かれていないので引き続き三国志演義に沿って書き進めたい。夫の周瑜は赤壁の戦いのあと2年後の

210年に、襄陽から曹操を攻める計画を立て、その遠征の途上の巴丘にて病のため急逝した。彼も35年の短い生涯であった。結婚生活もたかだか10年あまりしかなかった。孫策の死後は、夫と一緒に孫権を補佐している。夫孫策の死に際し、孔明は哀悼文を贈り、その中で、二人は似合いの夫婦であったと賛美したということだ。一説には小喬は3人の子供を育て、47歳で亡くなったと言われている。お墓は安徽省に2か所、湖南省に1か所あるようだが、どれが小喬の本当の墓かは定かでない。

曹操、劉備、孫権、周瑜、孫策に二喬と役者の揃ったこの赤壁の戦いは、映画やテレビドラマなど数多く描かれているが、映画「レッドクリフ」では現代の美女の誉れ高いリン・チーリンが小喬を演じてその美貌が話題となった。また京劇にも取り入れられ、筆者は京劇には詳しくないのでよく分からないが「鳳凰二喬」という演目があるようで、小喬は「喬婉」という名で、姉の大喬は「喬靚」で登場するそうである。ぜひ一度見てみたい。

## 中国の面白い神話物語・伝奇物語 (23) — 虬髯客伝 (1) —

きゅうぜんかくでん

### 顧傑

漢の滅亡後 400 年近い混乱の時代を経て、中国を再び統一した隋は建国して間もなく混乱に陥り、短命に終わったが、その混乱の中の物語である。

当時の皇帝煬帝が揚州を訪れた際、土木・水利などを司り功績のあった楊素という人物に、都である長安で仕えるよう命じた。楊素は自分の地位に驕り高ぶり、世の中の混乱に乗じて、自分の権力と名声を笠に着て、贅沢で傲慢な生活を送り、その作法は廷臣としての則を越えるものだった。大臣や公使の面接や来客があっても、ベッドの上に足を広げて座りながら傲慢な態度で迎え、両脇には美女を侍らせていた。晩年になると、自分の責任もわからなくなり、国の難局を救おうという気持ちもなくなり、状況はさらに酷くなった。

ある日、衛国公である李靖は、平民と称して訪れ、天下平定の奇策を建議すると言った。楊素もまた、無礼ながら気安くその訪問を受けた。李靖は近寄ると頭を下げ、「世は乱れています。いずれ英雄が現れるでしょう。楊さまは皇室の重臣として、偉人を擁立することを肝に銘じ、このような傲慢な態度で客を迎えるべきではありません」と諫めた。楊素は感嘆の表情を浮かべながら立ち上がり、李靖に謝り、李靖と暫く歓談し、やがて李靖が差し出した戦略書を受け取って会談を終えた。

李靖が楊素と議論している間、赤い<sup>ほっす</sup>払子を手にした見目麗しい女性が傍らに立ち、ずっと李靖を見つめていた。李靖が帰ると、その女性は、脇に立っていた兵士に「先ほど楊素様と話していた人物の名前とお泊りの宿は？」と訊き、答えを得ると静かに去っていった。

李靖は旅館に戻って寝たが、その夜、密かにドアをノックする音がしたので、李靖は立ち上がって扉を開けた。そこには、紫色の外套を羽織り、帽子を被って、杖に小包をぶら下げた人物が立っていた。李靖は「どなたでしょうか？」と尋ねると、「私は赤い払子を持って楊素の傍らに侍っていた女です」と答えた。

その人物は部屋に入り、紫色の外套を脱ぎ、帽子

を取ると、18~9 歳の美しい女性だった。特に化粧もせず、花柄のドレスに身を包み、李靖に礼をして言った。女は「私は長い間、楊素に仕えてきました。世の中の多くの人を見てきましたが、あなたほど立派な方はいませんでした。か弱い女は立派な殿方に惹かれます。おそばに仕えたいと、楊家を抜け出して参りました」

李靖が「楊素は都に大きな力を持っています。あなたは見つかってしまうでしょう」と云うと、紅拂女は、「彼は死にかけている男で、恐れるに値しません」と答えた。そして、「女たちは彼がもうダメだと知っていて、去っていく人が増えています。彼はしつこく追いません。ご心配には及びません」と説明した。

李靖が彼女の姓を尋ねると、「張」と答えた。家族のことを訊くと、「長女」と答えた。彼女の肌、物腰、気質を見ると、まさに天下一品。傍にいてくれるのは嬉しいが、嬉しければ嬉しいほど、不安が募り、用心を怠らなかつた。数日後、紅拂女がいう通り、楊家は



揚州瘦西湖古代懷古図（搜狐より）



現代揚州三月の春景色（百度：搜狐史册風雲より）



女を探すのをほどほどにして諦めたようだと言った。そこで、紅拂女は男装をして、李靖と一緒に馬に乗って太原に出発した。

旅の途中、疲れた二人は旅館で休憩することにした。旅館では料理の用意が整うまで、紅拂女は長い髪をほどいて梳り、李靖は馬のブラッシングをして寛いでいた。そこへ突然、中肉中背で巻き毛の赤髭を蓄えた男がロバに乗ってやって来た。革小包をストーブの前に投げ捨てると、枕をとってそれにもたれかかり、紅拂女が髪を梳いているのを見ていた。その様子を見て、李靖は無礼だと思ったが、紅拂女は来客の顔を見て、片手で髪を持ちながら、片手を背中に回して李靖に手を振り、任せて欲しいと合図をしたので、黙って馬の世話を続けた。

紅拂女は急いで髪を束ねて襟を正し、前に出て姓を尋ねた。横になっていた客は、「苗字は張だ」と答えた。紅拂女は、「私の苗字も張です。つまり妹に当たりますね」と言い、彼に礼をして、彼の家族について尋ねた。彼は「3番だ」と答え、張氏もまた紅拂女に何番目かと尋ねるので、「長女」と答えた。髭の男は、「本日ここで妹に会えるなんて、なんと幸運な日なんだ」と嬉しそうに言った。

紅拂女が振り返って「李郎、兄様にご挨拶をしてください」と言うので、李靖は恭しく挨拶をした。

それから3人はテーブルを囲んで座った。髭の男が空腹だということで、李靖は態々出かけて、焼餅を買って来た。焼いていた羊肉も丁度焼き上がり、食事の用意が整った。

髭の男はベルトから短剣を抜き、肉を切り分けて三人で楽しく食事をした。余った肉は荒く切り裂き、ロバの餌とした。

髭の男は「李靖よ。あなたは貧乏な学者だろう。どうやってあんな美しい女性を手に入れたのだ？」と訊いた。

李靖は「私は貧乏ですが、それでも志を高く持っています。他の人には話す義理はありませんが…兄上のお尋ねですから、申し上げます」と、ここまでの経緯を話した。

髭の男は「これからどこへ行くのか？」と訊く。

李靖は「太原に避難しようと思う」と答える。

髭の男は「それは都合がいい。ところで、酒はあるか？」と訊く。

李靖は「宿の西側には、酒屋があります」と言って、酒を買って来た。

酒を盃に満たした後、髭の男は「ここに肴がある。一緒に大いにやろうじゃないか」と誘ったが、李靖は「その気はない」と断った。

髭の男は仕方なく、独りで皮の小包を開け、人間の頭と心臓、肝臓を取り出し、頭を袋に戻して、心臓と肝臓を短刀で切って酒の肴とした。

酒を飲みながら、髭の男は、「この男は悪人なのだ。俺は10年来この男を憎んできたが、今日やっと捕まえたのだ。これでこの男に対する俺の憎しみは消えた」と話した。

更に続けて、「あなたのその立ち居振る舞いを見ればわかる。あなたはただ者ではないようだ。ところで、太原に行く理由は何ですか？変わった男がいると聞いたのですか？」と訊く。

李靖は「私がかつて、『これぞ真の天子となるべき』と思う人物と知り合い、彼が太原にいます。この人以外天子になるべき人はいません」と言った。

すると髭の男は、「その人の姓は何ですか？」と訊く。「私と同じ姓です」

「何歳ですか？」「まだ20歳です」

「彼は何者ですか？」「彼は国家元帥の息子です」と問答は続いた。

髭の男は、「あ、その人物に違いない。俺も彼に会わなければならない。私も会わせてもらえないだろうか？」と訊いた。

李靖はそれを聞いて、「私の友人に劉という人がいます。彼はその人物と親しいようなので、劉に頼めば会わせてくれるでしょう。しかし、なぜ彼に会いたいのですか？」と逆に訊ねた。

髭の男は「天下の気を観察している人が、太原に異変があると云い、この王たる気を探してほしいと頼んできた。太原に着くのはいつ頃だろうか？」

李靖は到着の日を計算して伝えると、

髭の男は「到着した翌日、夜明けとともに汾陽橋で待っていて欲しい」と言った。

言い終わると、彼はロバに乗り、全速力で走り去り、その姿は直ぐに見えなくなった。

李靖と紅拂女は事の成行きに驚きながらも、幸先は良いと判断し、二人も馬を急がせることにした。

(続く)

前回(3月号)からの続きです。1992年に「小学館」から発行された、北京・商務印書館との共同編集による「中日辞典」にある、**日:中**記号が付いた語を取り上げています。この記号は、漢字で対応する日本語がある場合、その意味・用法の違いを補充説明するというものです。中国語学習者にとって役に立ちそうなものをピックアップしています。

**【元气 yuánqì】** (人・国家・組織などの)生命力。活気。活力。元气旺盛 yuánqì wàngshèng/バイタリティーにあふれている。不伤元气 bù shāng yuánqì/活力を失わない。恢复元气 huīfù yuánqì/元気を回復する。

“元气”は国家や組織が存続する上で必要な活力についてもいうことができる。文化大革命使国家建设伤了元气 Wénhuà dàgéming shǐ guójiā jiànshè shāng le yuánqì/文化大革命によって国家の建設のために必要な活力が損なわれた。

日本語の「元気:げんき」には以下の中国語が相当する。「健康なこと」を意味する「元気」は“好 hǎo”“壮 zhuàng”など。托你的福我们都很好 tuō nǐ de fú wǒmen dōu hěn hǎo/おかげさまで元気にしております。爷爷身体壮得从来没有看过医生 yéye shēntǐ zhuàngde cónglái méiyǒu kànguò yīshēng/祖父はなかなか元気でこれまで医者にかかったことがない。「勢いのいいこと」を意味する「元気」は“精神 jīngshen”“精力 jīnglì”など。我爷爷已经 85 岁了, 还仍然精力充沛 wǒ yéye yǐjīng bāshiwǔ suì le, hái réngrán jīnglì chōngpèi/祖父は 85 歳ですが、まだいたって元気です。休息了一会儿后又有了些精神 xiūxi le yíhuìr hòu yòu yǒule xiē jīngshen/一休みするといくらか元気が出た。

**【约束 yuēshù】** 拘束(する)。束縛(する)。制限(する)。每个公民都要受到法律的约束 měige gōngmín dōu yào shòudào fǎlǜ de yuēshù/公民はすべて法律の束縛を受ける。

日本語の「約束(する):やくそく」は“约 yuē”“约定 yuēdìng”などを用いる。守约 shǒu yuē/約束を守る。失约 shī yuē/約束を破る。实现了和高中同学再会的约定 shíxiànle hé gāozhōng tóngxué zàihuì de yuēdìng/高校の同窓生たちと再会の約束を果たした。

**【杂用 záyòng】** いろいろな用途(に使う金)。雑費。这几个钱作为杂用吧 zhè jǐge qián zuòwéi záyòng ba/

この少しばかりの金は小遣いにしましょう。

日本語の「雑用:ぞつよう」は“琐事 suǒshì”“杂事 záshì”などを用いる。家庭琐事 jiāting suǒshì/家庭内の雑用。每天净是些琐碎的杂事, 真烦人 měitiān jìng shì xiē suǒsui de záshì, zhēn fán rén/毎日雑用ばかり多くて困るよ。

“杂”は「雑」の簡体字です。以前、取り上げた“急用 jíyòng”が「急ぎの用事」ではなく、「差し迫った入用」であることと同様、“杂用”も金銭を指すのですね。他にも、“零用 língyòng”(小遣い銭)、“家用 jiāyòng”(家庭の生活費)などの“用”もお金を指しています。

**【质问 zhìwèn】** 詰問(する)。なじる。問いただす。大家纷纷质问他 dàjiā fēnfēn zhìwèn tā/みんなは彼をしきりになじった。提出质问 tíchū zhìwèn/詰問する。

“质问”は日本語の「質問:しつもん」とは異なり、相手を非難するニュアンスを含み、使う範囲が狭い。「質問」は“问 wèn”“发问 fāwèn”“询问 xúnwèn”“提问 tíwèn”などを用いる。老师每次发问, 我们都正确地作了回答 lǎoshī měicì fāwèn, wǒmen dōu zhèngquè de zuòle huídá/先生が質問するたびに、私たちはみな正しく答えた。有什么不明白的地方, 大家可以提问 yǒu shénme bù míngbai de dìfang, dàjiā kěyǐ tíwèn/何か分からないところがあったら質問してください。每天 24 小时接受消费者的询问和投诉 měitiān èrshíshì xiǎoshí jiēshòu xiāofèi zhě de xúnwèn hé tóusù/毎日 24 時間消費者からの質問やクレームを受けつけています。

**【住所 zhùsuǒ】** 住んでいるところ。滞在しているところ。

日本語の「住所:じゅうしょ」は“住址 zhùzhǐ”“地址 dìzhǐ”を用いる。住址变了 zhùzhǐ biànle/住所が変わった。请写一下地址 qǐng xiě yíxià dìzhǐ/住所を書いてください。等我安顿下来以后, 就告诉你地址 děng wǒ āndùnxiàlai yǐhòu, jiù gàosu nǐ dìzhǐ/落ちついたら住所をお知らせします。

個人の住所の場合、“住址”“地址”ともに用いられるが、学校・役所・会社などの団体や組織の場合は“地址”のみが用いられるとあります。“住址”は、人が住んでいるところという意識があるからなのでしょう。

**【自爱 zìài】** 自重する。不知自爱 bùzhī zìài/自重することを知らない。軽率である。请自爱 qǐng zìài”



は「どうぞご自愛ください」ではなく「自重しなさい、自分の言動を慎みなさい」の意味。

日本語の「自愛：じあい」は“保重 bǎozhòng”を用いる。请您多加保重 qǐng nín duōjiā bǎozhòng/くれぐれもご自愛ください。在此季节,请多保重 zàicǐ jìjié, qǐng duō bǎozhòng/時節柄、ご自愛ください。

【最近 zuìjìn】 1. 最近. この間. このごろ. 最近她经常感冒 zuìjìn tā jīngcháng gǎnmào/このごろ彼女はよく風邪を引く。 2. 近いうちに. そのうちに. 听说最近要上演一部新电影 tīngshuō zuìjìn yào shàng yǎn yí bù xīn diànyǐng/近いうちに新しい映画が上映されるそうです。

日本語の「最近：さいきん」はすでに起こったことについていうが、中国語の“最近”は“最近我要去北京”（近いうち北京に行かなくては）のように、近い未来についてもいうことができる。

9回にわたって【日：中】の記号が付いた語を紹介してきましたが、今回でおしまいです。参考になったでしょうか。そして、この「中日辞典」からの意外な発見も今回をもちまして終了とさせていただきます。2020年、新型コロナウイルス感染症の流行でほとんどの交流活動が中止になり、自由時間ができました。さて、何をやるかと思ったときに、「中日辞典の読破」を思い立ちました。1日5ページを目途に読み始めました。この辞典は全部で1,988ページありますから、毎日続けても398日かかりますが、何とか読み終えることができました。

「辞書で調べる」のではなく「辞書を読む」からこそ見つけられたおもしろい語を、残りの誌面を使って紹介していきましょう。

### 【甬 béng · 彘 jiào · 孬 nāo】

この3つの語は、この中日辞典では「合音」とか「合成字」と呼んでいます。本来、2文字の語を上下に重ねて1文字にしたものです。“甬 béng”は“不用 búyòng”の合音で、「…する必要がない」「…に及ばない」の意。話し言葉で使われます。既然他不在家, 那咱们就甬去了 jìrán tā bú zài jiā, nà zánmen jiù béng qù le/彼が家にいないのなら、われわれは行く必要がない。“彘 jiào”は“只 zhǐ”と“要 yào”の合成字で、「…しさえすれば」の意。方言の言葉です。“孬 nāo”は“不 bù”と“好 hǎo”の合成字で、「悪い・よくない・気が弱い」の意。これも方言の言葉です。这个孩子挺老实, 就是太孬 zhège háizi tǐng lǎoshí, jiù shì tài nāo/この子はとてもおとなしいが、どうも気が弱すぎる。

### 【您 nín · 您 tān】

“您 nín”は“你 nǐ”の敬称で、「あなた」「あなたさま」の意。相手が複数の場合は、“您”の後ろに数量表現を加え、您几位上哪儿去? nín jǐwèi shàng nǎr qù?/みなさま方はどちらへお出かけですか。のように言います。また、書き言葉にも話し言葉にもまれに“您们 nínmen”を用いることがあるそうです。“您 tān”は“他 tā”の敬称で、「あの方」の意。方言の言葉で現在はあまり使われていないようです。您岁数儿大了 tān suìshù dà le/あの方はお年を召しておられる。

### 【斤 jīn · 两 liǎng · 钱 qián】

この3つの語は「重さ」の単位です。“一斤 yìjīn”は500g、これはご存じだと思います。買い物の場面でよく耳にしますからね。“一两 yìliǎng”は50gです。それでは100gは“两两 liǎngliǎng”でしょうか。いいえ違います、“二两 èrliǎng”です。ずいぶん昔のことですが、NHK中国語テレビ講座で、主人公の日本人留学生が水餃子を注文するときに使っていました。ちなみに、“两两 liǎng liǎng”という語があり、これは「二つずつ」の意。十三陵的石人石马都是两两相对的 Shísānlíng de shí rén shí mǎ dōu shì liǎng liǎng xiāngduì de/十三陵の石人や石馬はみな2基ずつ向かい合っている。“一钱 yìqián”は5g、これが使われた文は見つかりません。

### 【俩 liǎ · 仨 sā】

“俩 liǎ”は“两个 liǎngge”を合わせたもので、「二人・二つ」の意。話し言葉で使います。你们俩 nǐmen liǎ/君たち二人。発音は liǎng の韻尾が脱落して liǎ となります。ただし、「芸当・腕まえ・やりくち」を意味する“伎俩 jìliǎng”の場合は liǎng と発音します。“仨 sā”は“三个 sānge”を合わせたもので、「三人・三つ」の意。これも話し言葉で使います。一共五个, 我吃了俩, 他吃了仨 yìgòng wǔge, wǒ chī le liǎ, tā chī le sā/みんなで五つあったのを、私が二つ食べてあの人三つ食べた。

### 【廿 niàn · 卅 sà · 卌 xì】

“廿 niàn”は“十 shí”を横に二つ並べた字形で、「二十・20」の意。金額を書くときに改ざん防止のために用いることが多いです。固有名詞以外で、“二十 èrshí”の略字として用いるときは èrshí と発音します。《廿四史》Niànsìshǐ/『二十四史』。成立廿五周年纪念 chénglì èrshiwǔ zhōunián jìniàn/成立25周年記念。同様に“卅 sà”は「三十・30」、「卌 xì」は「四十・40」の意。五卅惨案 Wǔsà cǎn'àn/五・三〇事件。

それでは、またの機会にお会いしましょう。

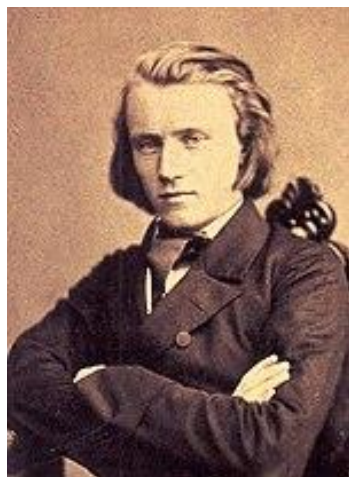
## シューマンとメンデルスゾーン（3）

和田 宏

ブラームスは、部屋に入って来るなり、自作のピアノ曲を弾きました。シューマンは、その力強く美しいメロディーに驚き、すぐに2階に居たクララを呼んで、“クララー！ 降りて来てごらん、素晴らしい才能の少年が来たよ！”と叫び、ブラームスの方に振り向いて、“君、もう一度弾いてくれないか？”と言ったのです。

### <可愛いブラームス>

ブラームスは、純真無垢な容顔で可憐な美少年だったので、女性たちはためらわずにキスが出来たと言われています。



若き日のブラームス  
(ウィキペディアより)

43歳だったシューマンは、内気な20歳のブラームスを、自らの書生として自宅に住むことを許しました。ロベルトは、ブラームスを“ベートーヴェンの再来である”と紹介する文を書き、ブラームスはその言葉通り、ロマン派音楽の

巨星となりました。

シューマンは、晩年、耳鳴りが酷かったり、妄想が浮かんできたりする精神障害に陥り、寒い冬の日だった1854年2月27日、橋の上からライン川に投身自殺をはかりましたが、たまたま川遊びをしていた漁船が傍に居たため、直ぐに助けられました。

シューマンはボンの精神病院に入院することになりましたが、この時、クララは末っ子で8人目となる赤ちゃんを身籠っていました。

シューマンは、2年後の1856年7月29日午後4時にボンの病院で亡くなりました。享年46。死因は梅毒による多臓器不全とする説が有力です。

クララは医師から、“君を見るとロベルトが興奮するから面会をしないように”と面会を止められていましたが、臨終の2日前に呼ばれ、夫・ロベルトと2年5ヶ月ぶりに面会しました。

### <ドイツ女性の鏡・クララ>

シューマンが亡くなったあと、欧州一のピアニストと評判の高かった36歳の未亡人クララは、生後1歳で夭折した長男エミールを除く7人の遺児を養育する傍ら、76歳で亡くなるまで40年間、第一線のピアノ演奏家としてヨーロッパ中を巡って、夫ロベルトとブラームスの曲を広めながら生活費を得ました。

1878年、59歳でフランクフルト音楽院の教授になり、この年に開催されたピアニスト生活50周年記念演奏会では、万雷の拍手が鳴り止みませんでした。あちらこちらで開催するクララのピアノ演奏会が首尾よく行われるように、ブラームスは陰で献身的にクララを支え、子供の面倒を見ていました。

クララは、晩年、聴覚が減退し、リウマチに悩み、ピアノが弾けなくなったことを嘆いていましたが、1896（明治29）年5月20日、脳出血で永遠の眠りにつきました。享年76。ボンにあるロベルトのお墓が再び開けられ、一緒に眠ることになりました。夫を愛し、子どもを愛し、ロベルトの作った音楽を愛した一生は、クララという名のとおり、「明るく清らかな」

ものでした。



クララ・シューマン  
(ウィキペディアより)

厳格で真面目な性格のクララ・シューマンは、ドイツ人女性の鏡です。欧州通貨がユーロに統合される前のドイツの100マルク紙幣の肖像となる程ですから。

生涯独身を通したブラームスは、クララのあとを追うかのように11ヶ月後の1897年4月3日、63年の生涯を閉じました。

### <シューマンの映画>

シューマンに関する映画は3本あります。①キャサリン・ヘップバーンがクララを演じる米語の映画『愛の調べ』（=1947年作）。②東西ドイツ合作で、俳優たちがドイツ語をしゃべる『哀愁のトロイメラ





シューマン夫妻の墓  
(ウィキペディアより)

イ』(=1983 年作)。③ドイツ・フランス・ハンガリー3 国合作のドイツ語の映画『クララ・シューマン 愛の協奏曲』(=2008 年作)です。①は、シューマンと、献身的に支える天才ピアニストの妻クララ。住み込みで弟子入りしたブラームスとの三角

関係もあり、多少脚色された伝記ドラマとなっています。②は、事実に近いが、全体がやや暗い作りとなっています。③は、ヘルマ・サンダース・ブラームスというブラームスの傍系の末裔の女性が監督して製作したものです。ブラームスばかりを持ち上げて、シューマンを狂人扱いにしており、私はスクリーンに向かって“シューマンを虚仮にした、こんな映画を二度と上映するなー！”と怒鳴りつけて、映画館をあとにした思い出があります。

### <あめにはさかえ>

ところで、私は2022年12月24日、日本フリーメソジスト教団に属している「町田福音キリスト教会」で行われたクリスマス音楽の夕べに参加。わんりい代表の寺西俊英さんらと一緒に、グリーンノートと言う合奏団の清らかな演奏を拝聴し、キャンドルサービスの恩恵に浴することが出来ました。『荒野の果てに』などの賛美歌も皆で歌いました。

クリスマスの讃美歌の一つに、『Hark! The Herald Angels Sing (天には栄え)』と言うのがあります。この曲は、イギリスの18世紀の宗教復興運動であるメソジスト派の指導者ジョン・ウェスレーの弟のチャールズ・ウェスレーによって発表されたものです。現行の歌詞は、メソジストの指導者であった牧師ジョージ・ホイットフィールドによって改訂されています。メロディーは、メンデルスゾーンが1840年、印刷術発明400年記念のために作曲したカンタータの中の一つが用いられています。私はこの歌も好きです。

英語の歌詞は：

『Hark! The Herald Angels Sing』

Hark! the herald angels sing,

Glory to the newborn King!

Peace on earth and mercy mild  
God and sinners reconciled  
Joyful, all ye nations rise  
Join the triumph of the skies.  
With angelic hosts proclaim  
Christ is born in Bethlehem  
Hark! the herald angels sing,  
Glory to the newborn King!

日本語の歌詞は：

『あめには栄え』

あめには栄え、 み神にあれや、  
つちにはやすき 人にあれやと、  
みつかいたちの たたうる歌を、  
ききてもろびと 共によろこび、  
今ぞうまれし 君をたたえよ。

中国語の歌詞は：

『听啊！天使高声唱』

听啊！天使高声唱， 荣耀归于新生王！  
天人从此长融洽， 恩宠平安被万方！  
起啊！万国众生灵， 响应诸天歌颂声  
加入天军传喜讯， 基督生于伯利恒。  
听啊！天使高声唱 荣耀归于新生王！

春には花が咲き、夏には蝉が鳴き、秋には木の実がみのり、冬には雪が舞う。季節や天気に移り変わるように、人生は喜びもあれば悲しみもあります。不条理なもの。だからこそ、私は結果がどうであれ、その時その時力一杯、一所懸命に生きることを信条としています。

ナポレオン・ボナパルトは、「余の辞書に『不可能』という字はない。」と豪語しましたが、私の座右の銘は、「余の辞書に『後悔』という字はない。」というものです。

シューマンは、音楽は言語を超えた次元で語りかけるという信念を持っていました。シューマンのこの信念は国境を越えて全世界に広がって行きます。出口の見出せない重苦しい日々音楽が光をもたらしてくれます。

2023年こそ、コロナ禍、物価高を乗り越え、戦争や諍いの無い、後悔のない世の中になるよう切に祈っています。(完)

## 「秦皇島」から「承德」へ

### 「避暑山荘・外八廟」駆け足旅行(2) 文と写真 吉光 清

朝、6時に起き、あいにくの小雨模様の中、秦皇島長距離バスターミナルまで「承徳行き」の切符を買って出た。秦皇島駅からも歩いて10分程度だが、前夜は午後9時前到着の列車で北戴河から帰ってきたので、各都市へのバスは全て発車し、建物の入り口は閉まっていた。

当初は、10時出発便の切符が買えれば良いと思っていたが、9時出発便のキャンセルがあったので、喜んで購入した(100元)。

ホテルに戻って、6時半から開いていた朝食ビュッフェに行き、荷物を纏めチェックアウト(押金を回収)して、バスターミナルに向かった。幸い傘を必要とする状態ではなくなって助かった。

#### ■「承徳市行きのバスに乗って

売店でパンを買って、9時前に乗車し、座席指定の窓際の席に座り、定刻通りの出発にひと安心した。大きな目をした2歳半くらいの女の子が周囲の大人たちを和ませていた。隣席のおばさんも菓子をあげて話し掛けていた。バスの床には、雨で泥だらけになった靴で乗り込まれても、後で掃除を楽にするためか、段ボールが敷かれてあり、見慣れぬ光景に、これを合理的と考えるべきか迷った。

バスは「京哈高速」に入って北京方面に走り、途中で「承秦高速」に岐れ、「山海関」から西進してきた「万里の長城」を南から北へと越えたはずだった



バスの床に敷かれた段ボール

が、高速道路上を車で走っていたので全く気付くことが出来なかった。

燕山山脈に近づくほどに道は峡谷を縫うようになったが、道路状態は良く、車の量も多くないので、快適に走り「青龍満州族自治州」の高原に入った。手元の方位磁石を見ると西に向かっていて、早起きのせいでウトウトし始めた時、件の女の子の父親が運転手に何か話しかけたら、バスは間もなく停車して、女の子と両親は下車していった。そこが、果たして停留所だったのかは良く分からない。車内がちょっと寂しくなった。

バスは「寛城満州族自治州」に入り、再び北上すると、眼下に「滦河」の支流が見え隠れした。「滦河」は「内蒙古自治区」近くに発し、避暑山荘の南を通り、燕山山地を下った後で、「青龍河」を併せて渤海に注ぐ、河北省を代表する大河である。

道が北西方向に向い出すと「承徳県」に入り、「承徳」が近づいた(「市」の中に、同名の「県(县)」があって混乱しないのだろうか?)。

#### ■ホテルを探して彷徨う

正午過ぎ、バスは市街地に入り、「承徳東バスターミナシヨン」に到着した。バスを降り、車体の下から荷物を引き出し、市内バスに乗り換えようとあたりを見回していると、おばさんが話し掛けてきた。旅行



小雨模様だった早朝の「秦皇島」鉄道駅



者と見て、避暑山荘近くのホテルを紹介しようということのようだった。“必要ない”と意思表示をして、前を走る道路脇のバス停で「1路」の市内バスに乗り込み、市の中心部に向かった。やがて「武烈河」を渡り、交差点を右折したバス停で下車した。ここまでは良かったが、その後は最悪だった。

承德市内の地図を貰った時に、予約したホテルを教えたら、「そのホテルなら 11 番目のバス停で降りて直ぐだ」と教えられたまま（プリントアウトしたホテルの予約票を持っていたので）、その時、地図上にホテルの位置を記入して貰い損ねてしまった（知人もバス停の名前は記憶していなかったが）。

周りはさすが、指折りの観光地、土曜日の午後なので歩道上を行き交う人々の数は半端ではなかった。

陽射しが戻った蒸し暑い天候の中、ホテルを探して、重いスーツケースを引き擦り、キャスターを無駄にすり減らし、大汗を掻いたが、目指す「ホリディイン・エクスプレス」は見つからなかった。

旅行用の中国語会話が出来たら、他のホテルに入って尋ねるとかの手段があっただろうが、それはハードルが高過ぎた。坂道や裏通りまで 2 時間余り歩いて、新品のスーツケースのキャスターを無駄に摩耗させた末に、誰かに尋ねるしか無いと悟った。

ここで、また問題に気付いた。日本で打ち出したホテルの予約票には英語の表記はあったが、簡体字の表記は無かったのである。目抜き通りから横に入った果物屋の店先で、昼食代わりのバナナ（20 元）を買いつつ、店主夫婦に予約票と会話代わりのメモ

書きを示したら、親切にもスマホで電話番号を検索して、ホテルを見つけ、道筋を教えてくれた。さんざん歩き廻った一画とは全く異なった方角だった。教えられた通り交差点を南へ進むと、馴染のロゴマークが見えて「承德中心智选假日酒店」が見つかった。

#### ■「避暑山荘」へは北に向かって道なりに

チェックインを済ませたが、押金の必要は無かった。思いがけない時間ロスで、昼食どころではなかった。そのうえ、猛烈な夕立がやって来て外出出来る状態ではなくなったので、おやつを食べながら地図を見るくらいしか出来なかった。

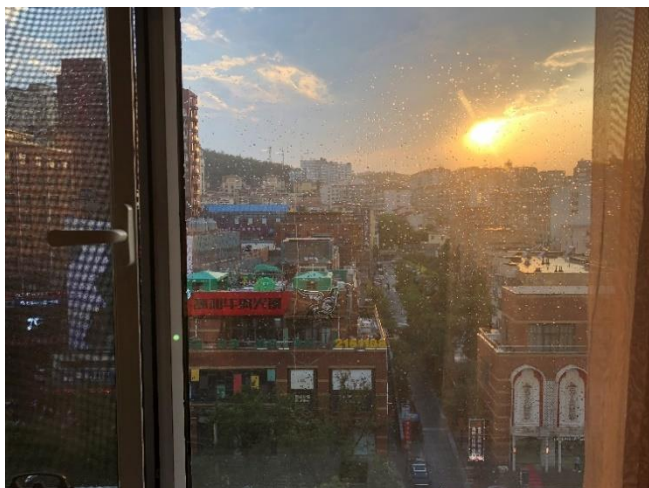
地図上で、ホテル位置を確かめたら（当然ながらホテル名は載っていないが）、歩き廻る羽目になった原因は、降りるべきバス停を過ぎて、交差点を余分に曲がってから下車したため、向かった方角が 90 度異なったのに、それに気が付かなかったことにあった。交差点角の大きな建物は、承德医学院の附属病院だった。ホテル探しの頼みの綱だった、お馴染みのロゴマークは、隣のホテルの陰になって、見え難くなっていた（交差点からは南へ約 200 メートルだった）。

「避暑山荘」への行き方は、ホテル前の道路をひたすら北に向かって道なりに歩くと「麗正門」に到達するようだった。しかし、不思議なことに、その最も重要なはずの道路には名称が記されていない。

夕暮れが迫っていたが、夕立ちが去ったので、翌日のために「避暑山荘」まで歩いてみることにした。相変わらず、観光地特有の雰囲気混雑していた。歩道上にサクランボなどの果物を売っている露店が数カ所に出ていた。誤って下車したバス停から先へ 500 メートルほど進むと、ロータリー式の交差点があり、そこから、右方向に湾曲する道に沿って 100 メートル余り歩いて行くと、左に「関帝廟」があり、その先に「麗正門」が見えた。

初日にも市内の観光ポイントを巡る目論見だったが、時刻も遅くなり帰路についた。交差点を少し南下した歩道脇では、大きな中国将棋盤を挟んで、立ちながら対局している 2 人がいて、それを 5、6 人が取り巻いて観戦していた。（つづく）

●資料：「承德市城区导览图」、中国地図出版社



夕立ちの雨粒が残る窓から市街を望む

## みんなの広場

### 四川省在住の大川健三さんからの近況報告

#### 成都市の今 (2)

姑娘山自然保護区管理局特別顧問 大川 健三

4月初め、3年ぶりに重慶の日本総領事館へ新幹線(和階号)で日帰りしましたが、当地の身分証明カード(永住許可証)だけで駅に出入りし乗り降りでき、乗車券を使いませんでした。予約と支払いはスマートフォン(iPhone)上のAPPで済ませ、(これまでの習慣で)駅の隅に置かれた無人機で乗車券を発券しましたが、使いませんでした。3年前に重慶へ行った時は駅の窓口で乗車券を買い、駅の出入りと乗り降りに乗車券を使いましたが、新型コロナ対策の健康碼・行程碼でスマートフォンが浸透し、コンピューター処理が拡って、すっかり様変わりしていました。大きな病院でも、以前は診察カードと窓口での人手処理が幅を利かせていましたが、今はスマートフォンで予約と支払いを済ませ、病院では殆ど無人機に身分証明カードやスマートフォン上の2次元バーコードを翳して出入り・診察受付・検査予約・支払いを行い、診察カードはごく一部の処理で使われるだけです。なお、少なからず居る不慣れな人達(私のような)のために、無人機の操作を代行する窓口が置かれ、説明員も配置されています。当地では身分証明カードとスマートフォンの出番が急激に増えていて、特にスマートフォンは出歩く時に必須になっています。

~~~~~

#### 「位置について、用意、どん！」のこと

後藤 芳昭

わんりい3月号内の「中日辞典からの意外な発見」(14)で河野公雄氏は、日本語と中国語では、漢字が同じでも意味・用法に違いがあることを補充説明して紹介されています。

その中の一つに、「用意」を挙げ、日本語の「用意」は、中国語では、“准备”や“预备”などを用いる。各就

各位、准备、跑！位置について、用意、どん！とのこと。

日本語の掛け声を中国語で何というか？いつも疑問に思っていましたが、一つ解答を得ました。中国語の掛け声は、聞いてもわからず消化不良状態でしたが、これで納得！

各就各位は、それぞれが、それぞれの位置につく、準備は、用意する、跑は、走ること。

中国語らしい言い方です。

河野氏には今後ともこのシリーズの連載を期待しています。

~~~~~

#### 小山内裏公園でのお花見

エダマメ

地域の歩く会の仲間に誘われ、小山内裏公園に行った。町田市と八王子市に跨る都立公園で、自然豊かな広大な公園だ。数日來の雨(菜種梅雨?)で、サクラはもう散ってしまったかと心配したが、まだ十分に残っていて楽しめた。サクラ以外にも四季折々の花が楽しめるとのこと。

最寄り駅の多摩境から歩いて数分で公園の入口到着。そこから戦車道という遊歩道が続いている。第2次世界大戦時に、戦車の性能テストや操縦訓練用として造られた道でそうよばれている。平日なのに犬の散歩やランニングする人もかなりいる。

公園の多くの部分を占めるサンクチュアリ(鳥獣の保護区域)が4カ所あり、そこは自然がまるごと保全され、私たちは立入禁止だ。右側はサンクチュアリ、左側は雑木林や春の花。もちろんサクラもある。植物に詳しい人がいろいろ教えてくれる。ソメイヨシノと河津桜くらいしか知らない私だが、ここにはタマノホシザクラという多摩にだけ生息する希少なサクラがあるという。

途中にある広場で休憩を取りながら進み、水辺広場近くのサクラ並木のすぐそばに、シートを広げ昼食をとった。すぐ近くに大田切池があり、その展望デッキからの眺めはどこかで見たような景色だ。こ



の池は太田川の源流で、かつては川岸にあった杉が枯木立になり、池の中にすくと立っている。そう、上高地の大正池の景色と似ていると私は思った。

久しぶりによく歩き、心地よく疲れた。帰りに寄り道をしたけれど、その日の歩数計は 15000 歩を超えていた。といっても、私の歩幅は 50cm と狭い。

以前通っていた中国語教室の先生の家が、多摩境駅の近くだということ思い出し、帰宅してから先生にはがきを書いた。“お住まいの近くに自然がたくさん残っているこんな素敵な公園があるなんて羨ましい” と書いて投函した。

数日後に、3 倍もの長文の返事をスマホの LINE にいただいた。先生のマンションのエンドランスを出ると目の前が内裏公園で、よく散歩する、とあり、1 週間前の満開の桜の写真が添えられていた。

あまり真面目でない生徒だった私のことをまだ覚えていてくれて嬉しかった。

~~~~~

### 私の花見はドライブスルー

鶴川万里子

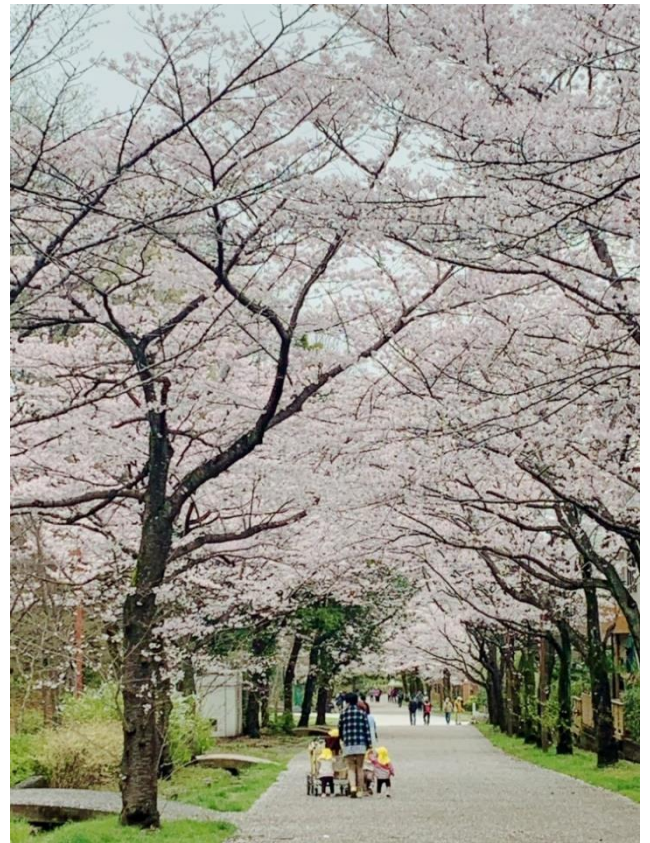
日本列島に住み着いた民族には、桜の花と何か特別な因縁があって、何時の頃からか、桜の季節になるとソワソワと落ち着かなくなる DNA が組み込まれてしまったのだろうか。

先人たちは、桜満開の頃に死にたいと憧れ、桜が無ければ心配事の無い春が送れるのにと、散る花を惜しんで恨み節を詠んでいる。

風流などとは縁のない私だが、やはり桜の季節は落ち着かない。仲間内で花見の計画があれば万難を排して参加したものだが、最近はいろいろな事情でそんな機会も徐々に少なくなって来た。

それでも桜の花への執着は捨てきれず、十数年前から春には必ず花見のドライブをするのが習慣になっている。花見のドライブと言っても、花の名所へドライブし下車して花を楽しむのではなく、街路樹として桜の樹が植えられた道路を走って、車中から花を愛でるドライブスルーの花見を行うのだ。これが意外と楽しめるので、毎年同じルートをたどって、各年の咲き具合を比較する。

4,5 年前までは独りで気ままに時間があれば何度でも出かけたものだが、車を捨てた最近は家族に乗せてもらっての花見なので、運転者の都合次第とな



小山内裏公園満開の桜 <撮影者: 郁唯>

り、今年は花の盛りを逃したかと心配したが、予想に反して、まだまだ見ごたえのある桜並木を走ることが出来た。

都内の桜はもう終わりが宣言される頃で、やはり多摩地域の桜は、1 週間ほど遅れて満開となるようだ。今年も無事、桜を見ることが出来た。

### ◇満柏画伯の漢訳俳句◇

がえる  
やせ蛙

負けるな一茶

これにあり

小林一茶

sō wā nǐ mò pà  
瘦蛙你莫怕

zhè lǐ yǒu yī chá  
这里有一茶



【わんりいの催し】  
皆様のご参加を歓迎します

▶▶▶わんりいは今年も参加します!!◀◀◀

🍷あさおサークル祭🍷

- 会場：川崎市麻生市民館 視聴覚室  
(小田急線新百合ヶ丘駅北口3分)
- 日時：6月4日(日)
  - ▲水墨画教室……………10:00~12:00
  - ▲ボイストレーニング……13:30~15:30

~~~~~

♪ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体のを抜いて気持ちよく発声しよう！  
声は健康のバロメーター！！

\*動きやすい服装でご参加ください。

- 会場：まちだ中央公民館 美術芸室
- 日時：5月23日(火)10:00~11:30  
6月27日(火)10:00~11:30
- 講師：Emme [エメ] (歌手)
- 会費：1,500円(講師謝礼・会場費)
- 定員：15名(原則として)
- 申込：☎042-735-7187(鈴木)

~~~~~

\*\*\*中国語で読む 漢詩の会\*\*\*

漢詩で磨く中国語の発音！中国語のリズムで読んで漢詩のすばらしさを味わおう！

- 会場：まちだ中央公民館 視聴覚室
- 日時：5月は休講  
6月18日(日)10:00~11:30
- 講師：植田渥雄先生  
桜美林大学名誉教授
- 会費：1,500円(会場費・講師謝礼)
- 定員：20名(原則として)
- 申込：☎090-1425-0472(寺西)  
Email:ukiuki65jpp@yahoo.co.jp  
(有為楠)

■5月・6月定例会 代表宅

- ▼5月11日(木)13:45~
- ▼6月8日(木)13:45~

■‘わんりい’ 発送 三輪センター

- ▼6月号 6月1日(木)
- ▼7月号 未定

☆☆編集後記☆☆

「年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず」という言葉があります。「白頭を悲しむ翁に代わりて」と題する漢詩の中の一節で、悠久の自然に比べて、人の世の移ろい、生命のはかなさを詠っています。柄にもなく、私の好きな漢詩の一節です。

先人達は自然の営みを毎年同じで不変と感じていましたが、最近では、自然も一昔前とはすっかり様変わりしたと感ずることが多くなりました。地球温暖化などと大上段に構えなくとも、身近でも小さな変化が数多く起こっています。地域によって違いはあるようですが、最近は雀の群れや燕の飛来を見なくなりました。これは街に新様式の家が増え、巣が作れないために、彼らが安全だと思ふ人間の近くで暮せなくなっているからだと言われます。人間の営みが自然の変化を誘発している一例です。

~~~~~

‘わんりい’は、新入会をいつでも歓迎します  
年会費：1800円、入会金なし

郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりい  
10月以降の入会は、当年度会費1000円

■問合せ：044-986-4195(寺西)

‘わんりい’283号の主な目次

寺子屋 四字成語(62)『鬼斧神工』……………	2
「日译诗词」(32) 王之涣『登鹳雀楼』……………	3
「漢詩の会報告」(65) 王維 『九月九日山東の兄弟を憶う』……………	4
「中原雑感」(31)「2022年度全国重大考古新発見」6 「中国の歴史を彩る美人百花」(16) 『大喬と小喬』……………	8
中国の神話・伝奇物語(23)「風塵三侠(1)」…	10
「中日辞典からの意外な発見」(15)……………	12
「シューマンとメンデルスゾーン」(3)……………	14
「避暑山荘・外八廟」駆け足旅行(2)……………	16
みんなの広場……………	18
‘わんりい’の催し・お知らせ……………	20